

## 東日本大震災の教訓

### —急がれる津波対策の見直し—



はるか彼方まで続く瓦礫の平地（陸前高田市にて）

### 「(仮称)津波避難誘導マップ」作成配布へ

今回の東日本大震災は普段から防災活動に取り組む私達にとっても大変な衝撃を与えた。藤沢市では想定外とされる大津波の発生を受け、津波対策を抜本的に見直すことになった。計画の基礎となる測定値が大幅に見直されるのに先駆け、市独自で津波対策を強化する。市町村レベルで独自で津波対策を強化するのは県内自治体では珍しいという。震災後すでに海岸に面する県内自治体の首長らが県に対し、津波浸水予測図の改訂を要請しているが、これとは別に対応を急ぐ考えだ。

市内南部には海拔が低い地域が広がっており、これまでのハザードマップは07年に県が纏めた数値を基にしたもので、想定した津波は最大でも6㍍とされ、国道134号が防ぐことに成っていた。しかし今回の大災害では10㍍を超す想定外の津波が押し寄せた為に南部地域の住民の不安が非常に高まっている。

津波が134号線を越えて来た場合を想定し、国道1号練藤沢バイパス以南の、緊急避難出来る3階建て以上のRC構造の建物や、地区別の海拔高さを明記したマップを11万1000部作成して該当地区全戸に配る費用、及び防災行政無線スピーカー設置箇所を海岸沿いを中心に増やし、聞こえにくい場所を無くすなどの費用を盛り込んだ一般会計補正予算案を6月定例議会に提出する。

以上の様に東日本大震災は従来の防災への取り組みを大きく見直し、私達の生活までを見直す大きな教訓を与えた。藤沢災害救援ボランティアネットワークも藤沢市に避難して来ている方々のサポートや支援物資の募集等、従来の活動以外に新たな活動をしており、さらに多くの方の参加が望まれる。

# かながわ東日本大震災被災地支援ボランティアバスへ参加して

藤沢災害救援ボランティアネットワーク事務局

大田 哲夫

第1次（先遣隊）思い出探し隊	4月 10日～11日	大船渡市
第3次 思い出探し隊	5月 7日～9日	陸前高田市
被災地(宮城県)支援隊	5月 27日～28日	東松島市

4月10日、神奈川災害ボランティアネットワークと神奈川県は独立行政法人防災科学技術研究所防災システム研究センターからの依頼を受けて、岩手県大船渡市に28人の被災地ボランティアを「思い出探し隊」として派遣。藤沢災害救援ボランティアネットワークの森井代表と水島事務局長も支援メンバーとして参加しました。

「思い出探し隊」は、大型重機を使った瓦礫撤去作業の前に、瓦礫の中から、アルバム、賞状、



瓦礫の中から思い出の品を搜す

トロフィー、寄せ書きなど被災者にとって大切な思い出の品を捜す作業を行い、乾燥してから仕分けし、展示場にて被災者の元に返す仕事を行なう。

5月7日の第3次は事務局の大田が参加しましたが、岩手県迄バスで行くには大変時間が掛かると聞いていましたが横浜駅前から8時間以上を要しました。先遣隊では作業日の夜、終電に間に合う様に横浜に帰って来た様ですが、大変ハードな行程で第2次の派遣からは翌朝の始発に乗れる様な帰着に成りました。それでもバスの中ではほとんど寝れませんでした。朝6時頃に住田町に着き役場のトイレをお借りし、現場まで案内してくださいるレスキュウバイク隊の萩原氏を8時過ぎまで待ち、同行のもと作業現場と成る陸前高田オートキャンプ場モギリティアに向かいました。住田町から陸前高田までは車



京都木津川市の応援給水車  
(住田町にて)

で30分程の距離ですが、川沿いに下って行くに従い川に瓦礫が多く目に付くようになり、目の前が開けた瞬間に愕然としました。当たり一面に瓦礫の平地が広がるか何キロも広がっており、まさに藤沢で言えば遊行時の坂を下りて来たら、海までの間は全て瓦礫の平地に成ってしまい、全て無くなってしまったことです。自衛隊、警察、消防による遺体の捜索が続いている、悲惨な状況を見ながら作業現場であるオートキャンプ場へ入りました。ここでは第1次、2次思い出探し隊が大船渡で集め



集められた思い出の品



地盤が下がり海上に没した高田松原

てきた思い出の品を仕分け消掃する作業でした。が、北海道から来た自衛隊が炊き出し炊飯をやって各避難所へ運ぶ作業もやっています。思い出の品の仕分けは名前や住所等すぐ判明する物、関連から調べられる物、まるで分からぬ物に別け、全て濡れているので汚れを落とし風に当て感想させてからケースに収めましたが、実に色々な物があり、書画骨董や卒業証書、おもちゃ等や市民の戸籍謄本や5万円入りの香典袋などすごい数の品がありました。涙を誘うのは70歳位の女性が来られ、亡くなった息子さんの写真を毎日探しに来ている。遺体は土葬にしたが全て失ない息子の写真が無いとお線香を上げられない涙を流しながら話されていましたが、見つからず帰られたのが津波の悲惨さを物語っています。

物語っています。

\* 藤沢災害救援ボランティアネットワークの支援企業です \*

神奈川県知事許可第955号  
総合建築業

有限会社 森井工務店

〒251-0051 藤沢市白幡4丁目9番1～1F号

電話 0465 (81) 3303  
0465 (81) 2818

一般建築金物

株式会社 伊藤屋

本社 〒251-0052 藤沢市藤沢1-1-15

Tel 0466(26)3721(代) fax 0466(22)2254

営業所 〒252-0315 藤沢市石川16-18-50

Tel 0466(87)7800(代) fax 0466(87)7802

建築金物・建築資材・電動工具  
ボルナット・釘・針金・砥石・刃物  
家具・建築金物・シート・袋各種

仁 平

〒252-0815 藤沢市石川2 15 11

電話 0466 (87) 1500(代)  
FAX 0466 (87) 1502

## 東松島市支援にボランティアの原点をみる



東松島市のバス発着所

5月7日の思い出探し隊参加後に今月中にもう一度参加したいと申し込んだが既に満杯になり断られてしまった。5月27日予定の東松島市支援隊

を引率するコーディネータがないので、そちらへ参加して欲しいと言われ直ぐに申し込んだ。

今回は宮城県とやや近いので集合が夜8時となり出発が9時でしたが、集合場所の県民サポートセンター11階に入り、驚いたのは参加者が73人でバス2台、参加者が皆若く16歳の高校生もおり半分が女性でした。それにNHKのスタッフ4名が取材の為に2日間同行することになった。取材の目的は連休後のボランティアが減っており、いかに多くの人が



ボランティアセンター サテライト

ボランティアに参加しやすいやり方を2日朝の「おはよう日本」で放送することでした。会場では高揚した熱気の中で出発式を行い、東松島を目指し出発しました。車中ではお互いを紹介し合い、すぐ打ち解けた雰囲気になり、目的を同じにする事がいかに人を結び着けるかを感じました。金曜から土曜と言うことで何処のサービスエリアも被災地に向かうボランティアバスでごった返しており、駐車場所が確保出来ない程



被災者宅の泥だし

全国から来ました。皆生のサービスエリアで仮眠を取り、朝食、作業着に着替えた後、東松島市のバス降車場所から徒歩でボランティアセンターのサテライト(運動公園)

に向かい、そこでコーディネータから作業内容を聞く。作業は全て泥だしで現場は3ヶ所あり、3班に分けそれぞれにリーダーを決めお互いの携帯番号を開き現場に向かう。私の班は20名で男女約半々で、コーディネータに案内され被災者宅に着き、敷地の泥を全て土嚢袋に詰めて道路に出すことになり、NHKもそれを取材することに



バス1号車の仲間と共に

なったが敷地は1500坪もあり、20人が分散していくは短時間で目に見える結果を出せず全員で一ヶ所を重点的に作業することにした。あいにく10時頃から雨が降り出したが、基本的に雨の場合は屋外作業はやらない事になっていたが、ボランティアの熱い気持ちと依頼主の希望、NHKの取材成果を鑑み、雨具を用意している人はそのまま屋外で、雨具の無い人は納屋内の泥を出すことにした。途中で昼食を探していると雨で引き上げた他の2班から電話があり、早く帰って来てもらつたが実情を説明し、30人程応援に来てもらったので1時半頃に終了した。搬出した土嚢の数は400袋以上にもなり、道路に置ききれない程になつた。最後に依頼主が皆の前で感謝の言葉を述べられ、私達も励ましの言葉を掛け帰つて来ました。

帰りのバスの中で振り返りの意見を述べてもらいましたが、まずこのボランティアに参加した動機を聞いてみました。

連日被災地の様子がTVで流れられているのを見ていた、「何か自分が被災者の為にしてあげたい」として義援金を出したが、何處にどの様に使われているのが見えない。相手の顔が見えない所に不満が残る。今回の様に



出された土嚢袋の山

直接被災者にお会いして、望む事をしてあげられる喜び、そして「有り難う」と言つていただく喜びと達成感が有るからまた来たいと思う。



雨の中での泥だし作業

そして同じ思いで参加している人達との心の繋がりが楽しく嬉しいと述べていました。以上の感想を聞き、今回のリーダーとしての判断は間違っていたなと思ったと共に、ボランティアの原点を見たよう

\* 藤沢災害救援ボランティアネットワークの支援企業です \*

安心の関東運輸局認定第625号

トランクルームのご用命は

**有限会社 鈴木倉庫**

電話 0120-34-1118

**ダスキンメリーメイド藤沢商店**

電話 0120-46-0770

総合アルミ建材

**庄瀬硝子建材株式会社**

本社〒251-0032藤沢市片瀬4-14-6

業務配送センター

T251-0032藤沢市片瀬2-16-29

電話 (0466) 22-6605

FAX (0466) 23-6994

ほんてよし 心里かな木の住まい

木材・新材・住宅機器

**合資会社 佐々木材店**

〒251-0052 藤沢市藤沢1丁目7-18

電話 (0466) 25-2511(代)

FAX (0466) 25-2515

## 市民レポーター＆災害情報コーディネータが誕生しました

大規模災害のとき、被災地からのリアルタイムな情報がもとめられます。東日本大震災では、通話が困難な電話(携帯)に代わってインターネットが活躍しました。このことから、FSVネットでは、独立行政法人防災科学研究所が提供しているe-コミュニティシステムを使い携帯メールを活用した災害情報システムの運用を進めております。

地域防災力向上の一助として、普段は「市民レポーター」として街角情報を発信し、災害時には様々な災害情報を収集し、編集・再発信できる「災害情報コーディネーター」として活動できる人材の育成を進めております。

2010年9月16日と10月5日の二回の研修会を実施して市内への普及推進役として、12名の災害情報コーディネーターが誕生しました。要請講座の企画運営など、これから活動が期待されます。



## 防災ラジオドラマコンテスト 鵠沼中学校地区防災連絡協議会が最優秀賞に

防災科学技術研究所主催の第1回地域発防災ラジオドラマコンテスト脚本部門において、鵠沼中学校地区防災連絡協議会が最優秀賞に輝きました。発足以来毎月協議を重ね、訓練・講演会等を6年間続け、昨年初めて行われた宿泊訓練の体験を基にシナリオを作ったもので、地道な活動を裏付けにした内容が高く評価されました。

シナリオは実際にNHKラジオが声優を使いラジオドラマに仕上げ、1月17日の防災記念番組で全国放送されました。鵠沼中学校地区防災連絡協議会ではこれを励みにマニュアル作成と東日本大震災の現状を鑑みた新たな避難所の対応に取り組んでいます。



**藤沢災害救援ボランティアネットワーク(FSVnet)会員募集**  
藤沢災害救援ボランティアネットワークでは、会員を募集しています。

☆入会金 不要  
☆会費 年額 1口 1,000円 団体会員 3口以上 個人会員 1口以上  
《貴様の入会をお待ちしています。》

☆お問い合わせ先  
藤沢災害救援ボランティアネットワーク事務局 Tel0466-84-1762 E-mail: fsvnet@arts-k.com

### 編集後記

未曾有の東日本大震災は私達に多くの教訓をもたらし、生活スタイルまでも変えるを得なくなっている。昨年のチリ津波避難勧告が発令された際に、過去に津波の被害を受けている北海道、青森、岩手、宮城、三重、和歌山、徳島、高知の沿岸市町村の避難者は対象人口74万人のうち5.1パーセントの3.8万人に過ぎなかった。

「これでは近い将来来るらしくなる」と警告を発していた学者がいる。岩波新書「津波災害」の著者河田恒昭・阪神淡路大震災記念「人と防災未来センター」所長である。昨年12月の出版であるが、この本を一冊何人が読んだであろうか。はっきりした正確なデータを基に省報を発信していたが、馬の耳に念仏では余りにも悲しい。